



ムーアカデミー通信

Aichi Kaisho Forest Center News Letter vol.54 Winter 2023



これはクロモジの冬芽だよ。
 クロモジはとても良い香りがするんだ。だから、昔からつまようじに使われているんだ。
 3月の終わり頃には黄色い花を木いっぱい開くよ。
 待ち遠しいね。



今号のトピックス

- ・海上の森散歩 ～冬芽を観察しよう！～……………(2P)
- ・この人 あいち海上の森交流会 世話人代表 大谷敏和さん……………(3P)
- ・センター職員随想リレー 語りべの一言……………(3P)
- ・海上の森は今……………(4P)

里と森の教室で収穫感謝祭が行われました！



海上の里で11月20日に、恒例の収穫感謝祭がありました。当日は雨が心配される空模様で、スタッフは前日から会場の里山サテライトの軒先からビニールシートを張り出したり、テントを立てるなどの雨対策の準備に追われました。

収穫感謝祭には、教室の参加者や海上の森の会の会員など63名が参加しました。

大人も子どもも初めての餅つきに挑戦したり、芋煮を堪能していました。自分たちが育てた餅米や里芋はきつと格別な味がしたことでしょ。

また、年末までには間がありました。障子の張り替えに備えて、子どもたちは障子紙を破り、組子から剥がす作業を手伝いました。最近の住宅は和室が少なくなり障子のない家庭も珍しくありません。子どもたちにとっては初めての経験なのか夢中になって取り組んでいました。

海上の森散歩 ～冬芽を観察しよう！～

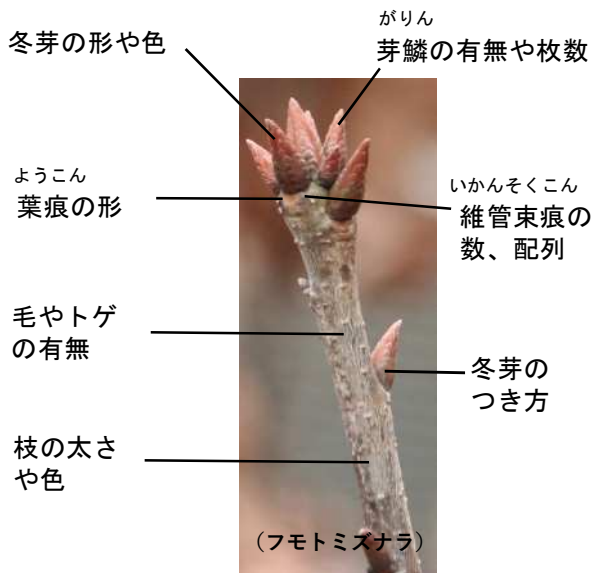
冬の森は、「お休み中」の時期と思われるかもしれませんが、葉が落ちて花も少ない寂しそうな森の中でも、木の枝を手にとると、春を待つ小さな芽が並んでいます。冬芽です。春に活動を開始するために準備しているのです。この芽から春になると葉や花が開きます。

写真は、センター本館周りや遊歩施設内で普通に見られる冬芽です。冬ならではの植物の楽しみ方を海上の森で実践してみたいはいかがでしょうか。

冬芽観察のポイント

まずは枝を手にとって、なるべく先端の大きな冬芽を見てみる。見分けのポイントに、形、色、つき方（互生/対生）、芽鱗（※1）の有無や枚数、毛の有無などがある。冬芽に続いて葉痕を見る。枝の途中のものが見やすく、顔のように見える維管束痕（※2）の個数や並び方も重要。枝にも、太さ、色、毛やトゲの有無などのポイントがある。慣れれば特徴がわかってくる。初めのうちは、ゆっくり観察してみてください。

- ※1 葉または花になる芽を覆って保護しているうろこ状の薄片
- ※2 維管束は水分や養分が通る管のことで、葉痕にその管の断面が斑点のように残ったもの



ルーペがあると観察しやすいよ！
枝を折らないようにね。



参考文献：『冬芽ハンドブック』広沢 毅 林 将之 文一総合出版



この人「自然を通して子どもたちの感性を育む」 大谷敏和さん

1987年（昭和62年）11月、愛知県主催の自然観察指導員講習会を受け、愛知県や犬山市などが主催する観察会のお手伝いをしている人からいろいろな切り口の観察方法を学んだ。自分のフィールドを持ちテーマを持って調べた人の話の魅力を感じ、自分も1995年（平成7年）1月から定光寺にフィールドを持ち27年になる。この間子どもたちとエコクラブを作り、川の石をひっくり返した時、卵をまもるカワヨシノボリ、時間になると舞い降りてくるアオサギの行動を遊びの中から見つけた。サワガニの行動を2年間調べ、筑波やcop10ブース会場で発表して他のエコクラブと交流もした。こういった経験から「生き物のことは生き物に聞け。疑問は与えられるものじゃなく毎日の遊びや観察から出るものだ。」と思うようになった。

2005年（平成17年）の愛知万博後の2007年度（平成19年度）からあいち海上の森センターが開校したあいち海上の森大学の講座を受け同窓会に加入した。講座終了にともない2018年（平成30年）にあいち海上の森交流会と名称変更し、各地で活躍されている会員のみならず誰でもが海上の森から発信する活動の場として再スタートした。海上の森条例の基本理念には「海

上の森は、県民が、自然との触れ合いを通じて、自然の仕組み及び人と自然との関係についての理解を深める場」とあり、あいち海上の森センターの協力を頂きながら今年で3年目になる夏休みのセンスオブワンダーを「この時期でしか・この時間でしか・ここでしか」見られない自然の不思議さ・楽しさを感じ取ってもらう講座を開いてきた。夜駐車スペースのトイレの光に集まる生き物たちを見る子どもたちの姿は準備の苦勞を忘れさせてくれる。学びの内容も方法も自然を見る目も多様化している。多くの知恵を出し合い子どもたちを夢中にしたいと思っている。



<プロフィール>

元小中高理科教員
元自然観察指導員 会長
定光寺自然観察会 代表
あいち海上の森交流会
世話人代表

センター職員随想リレー 語りべの一言

最近、池田清彦氏の「40歳からは自由に生きる」を読みました。人の生物としての寿命は38歳で、40歳を過ぎたらおまけの人生なので、世間の常識ばかりにとらわれず少しは自由に生きることを考えてはどうか、という内容だったと思います。

私の住む地域では町内会から脱退する人が以前より増えているようですし、このお正月には定年を機会に年賀状じまいをすると書いてきた友人もいました。手間を要することは止めて、自由に生きようということかもしれません。高校3年生の時、担任の先生に「お前、楽道家だな」と言われた私は、何が何でもやりたいことがある訳でもなく、

自分のような者でも何とかなるだろうと、森林・林業関係の学校に進みました。卒業後は、会社勤めをして東京や札幌で過ごした後、今の仕事をする事になりましたが、当時は社会人採用枠がなく、30歳近い私は、林学職採用試験のバイブルと言われていた林業実務必携を始め、高校林業科の教科書まで探し求めて勉強した記憶があります。私が楽道家でなかったのは、この時だけかもしれません。今回この原稿を書く中で、自分ではいろいろ考え込んで面倒な人生を送ってきたように思っていたのですが、実は既に結構自由に生きているのかもしれないと感じています。（T.N）

海上の森はいま

7年目を迎えた森女養成コース

女性の林業従事者は、1980年には約2.4万人(全体の約16%)を数えましたが、2010年には約3千人(全体の約6%)まで減少し、近年は横ばいで推移しています(林野庁)。減少した主な要因は、造林や初期保育の事業が激減し、農山村女性の就業機会が減少したことによると言われています。一方、都市に暮らす女性の中において、エシカル消費の高まりなどと相まって農山村や森林と何らかの関わりを持った生き方を志向する女性が増えつつあります。こうした方々の思いに沿いつつ、森林・林業分野への参画の糸口ともなればとの考えから、2016年度に森女養成コース(以下、森女)は発足しました。

今年度までの7年間で延べ68名の方が受講しました。修了生の中には森女の受講がきっかけで、林業大学校に進学し、現在、林業会社や森林組合などの林業経営体で活躍されている方もいらっしゃいます。また、森女OGで結成され海上の森で森林の整備活動をしているグループもあります。

全国には多くの林業女子会が立ち上がってネットワークを築き、多様な切り口から林業に関わっています。今後、森女OGから一人でも多くの方が森林・林業関係分野に進まれ、新たな視点で林業をとらえ、各地の仲間とも連携・意見交換、さらには提言することで、女性も男性も働きがいのある林業界へつながることを期待します。



海上の森キッズアカデミーが開催されました！

キッズアカデミーが12月4日に開催されました。「森のがっこう」は小学生、「森のようちえん」は4歳以上の園児が対象です。親子合わせて50人が参加しました。

「森のがっこう」は恒例のリースづくりを行いました。「森のようちえん」は最初に幼児体験フィールドで、ロープ渡りや綱引きを体験しました。次は本館2階のウッドデッキへ移動し、ビニール袋に思い思いの落ち葉を貼ってドレスづくりです。完成後は階段を使ってファッションショーです。皆、モデル気分を味わっていました。



里山暮らしコースが開催されました！

11月19日から12月18日にかけて5日間の日程で、里山暮らしコースが開催されました。本コースの特色は木、木の実(どんぐり・ザクロ)、土を使って草木染めや焼き物づくりを行うことにあります。材料は全て里山からの恵みです。

木を伐採、薪割り、炭焼き、そしてできた炭を燃料にしての焼き物づくりや、手ぬぐいを木の実を染料にして染め抜くことを体験しました。



編集後記

毎日寒い日が続きます。しかし、森の中に入って目を凝らせばあちらこちらで春に向けての準備が始まっています。今号でも紹介しました冬芽です。各々個性豊かな姿を見せてくれますので、きっと飽きることなく森の散策が楽しめることでしょう。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)

発行日 2023年2月1日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/>

あいち海上の森センターホームページでカラー版を見ることができます。

< QRコード >



ホームページ